

{ エネルギー
インフラの
憧憬 }

大規模運営に挑んだ 20 年 設備更新であらたな風つかむ

新苦前ウィンビラ発電所 Jパワーグループ

最北の稚内から140 kmほどの南方に、道内屈指の風況の良さで知られる風力の町・苫前町がある。幾多の風車が立ち並ぶ中、Jパワーのウィンビラファーム「新苦前ウィンビラ」がその一角を占める。時折、風上へとナセルの向きを変え、日本海からの良好な風を受けて新しい純白の羽根が回る。

ここは、2000年12月に国内における大規模風力の先駆けとして運転開始した。その規模はウィンビラファームと呼ぶにふさわしい3万600 kW。20年以上を経て、Jパワーは23年10月に全基をリニューアルした。単基当たり最大1650 kWだった従来に比べ、新型基は4300 kWだ。大型化は発電効率を向上させ、基数を19から8へ減らしたことで環境負荷低減や運営の合理化にも貢献する。

ビュッと一定の時を刻むように風を切る羽根の音は、脱炭素社会への歩みを進める確かな足音に聞こえてくる。

